

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	るーと		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 8日 ～ 2025年 11月 30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55	(回答者数) 44
○従業者評価実施期間	2025年 11月 17日 ～ 2025年 11月 30日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士が主体となった個別支援を実施することで、作業療法士の専門性を活かしながら、お子さんとご家族に合わせた支援を実施することができること。	複数の作業療法士を配置し、意見交換を行いながら支援を実施することで、支援の量と質を担保することに繋げている。	それぞれの専門性の質を高めていくことによって、お子さんとご家族への支援の質の向上に繋げていく。 また、作業療法士以外のスタッフともお互いの視点や知識を共有していくことで、事業所全体の支援の質の向上に努めていく。
2	常に支援場面を保護者の方に見ていただくことで、お子さんの様子や支援の方向性を共有しやすいこと。	実際の支援場面を見ていただきながら話をする機会をすることで、生活の中での取り組みに対しても具体的なイメージを持っていただきやすい状況を作ることに努めている。	引き続き、今の形を維持しながら、具体的でわかりやすい説明を心がけていく。 また、それぞれのスタッフの資質の向上に努め、より生活の中で実現可能な提案ができるように情報共有を行なっていく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会などご家族を繋ぐための取り組みができていないこと。	学習会や座談会などの実施にあたり、それを実施するための体制やスケジュール（ご家族が参加しやすい形も含めて）の調整が難しい。	ご家族同士の繋がりを作ることやお子さんへの関わり方の工夫などの共有を目的として座談会や学習会の開催を検討する。
2	相談体制や事故等の対応について周知できていないこと。	相談体制の整備や事故対応マニュアルの作成などは行なっているが、それを知っていただく機会を持つことができていない。	相談体制や事故対応マニュアルについても発信を検討していく。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名

ーと

公表日 2025年 12月 26日

利用児童数

55

回収数

44

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	42	2			活動も充分にできる広さで、広すぎないという所も良い。 しやすいよう配慮されていると思う。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	43			1	運動や遊びを通じて、広い視野で子供を見て、専門的な視点からの気付きやアドバイスをいただけて、本当に助かってます。 具体的に、何を指すのか？そのためには、このような関わり方がありますが、など、専門的に話してくださいます。 マンツーマンで対応して下さることが安心できる。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	43	1			とても分かりやすく、助かっています。 身長が低いので当たったことはないですが、吊り棚が気になります。	吊り棚については、クッションを貼るなど安全面の対策を実施する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	44				完璧です。 いつも教室は綺麗にされています トイレもいつも綺麗です	
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	36				こちらの困りごとなどに専門的な分野から対応してくださっている。 親では気がつかなかった、特性を教えて下さり、その捉え方もアドバイスしてくたさいます。 現在の持てる力、今後の見通し、など、生活を見据えてのアドバイス、目標設定、楽しいことばかりでなくちょっとやってみよう、との場面作りなど、丁寧に関わって頂いていると感じます	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	34			2		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	44				とても丁寧で、的確で助かっています。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	44					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	44					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	41	2		1	先生方からもよくご提案して下さいます。 その時の状況に合わせ臨機応変にしてくださいることが助かります。	
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6	1	11	26	利用回数が少ないのでわからない	お子さんの支援に対する本事業所での必要性について検討していく。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	43	1			その度毎話し合いの場を設けてくれる。	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	44					

保護者への説明等	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	27	4		13	日頃のアドバイスや会話全てがベアトレに通じていると感じています。プログラムではないと思うが、その時に質問に対して細かく対応して下さる。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	43	1				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	40	4			どの先生方も親身になって下さり相談しやすく感謝しております	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	35			1	寄り添ってくれている。どの先生方も熱心に関わって頂いていると感じています 相談しやすい環境だと思います。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14	4	3	23	存じ上げず申し訳ございません。	学習会など放課後等デイサービスご利用のご家族に向けた企画についても検討していく。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	26			18	そのような事を見聞きする機会がないため、わかりません。	相談体制については、支援の実施時や電話、LINEなどを活用しているが、周知しきれていない面もあるため、通信やLINEなどを活用し、相談しやすい雰囲気づくりに努めていく。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	44					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	38			6		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	41			3		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	41			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	34			10		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	36					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	23		1	12	親が付添しているので、そのような場面にならない。	引き続き、事故等があった際は速やかに報告、対応を行なっていく。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	36					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	43			1	毎回楽しみにしています。いつも一番子どもに合った学習内容を提供してくださりありがとうございます。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	44				いつも暖かく寄り添って支援していただきありがとうございます。息子もーとさんに行ける日をいつも楽しみにしています。毎回本人のペースに合わせて進めてくださるので集中してできていると思います。療育中に子供の成長に気付かせて貰うこともあります。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
るーと		2025年 12月 26日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		活動によって部屋を分けるなど、活動に支障のないスペースを確保できるようにしている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		安全に支援ができる人員を配置している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		身体を動かす部屋と机上活動を行う部屋を分けている。視線入力装置や電動車椅子、スイッチ等も導入している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		清掃や消毒作業の実施。また、ティッシュやアルコール綿はお子さんに届かないところで大人が取りやすい配置にしており、ケアしやすい状況を作っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	1	必要なお子さんには別室が使えるようにスケジュールを調整している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		ミーティングやICTの活用によって、効率的な方法をスタッフ間で相談しながら取り組んでいる。また、お子さんの姿や支援方法を深めるためのミーティングも実施している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		評価表のご協力を依頼し、職員全体で意向の確認と改善点の抽出に取り組んでいる。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		各職種の責任者とのミーティングを実施することで、それぞれの部門の改善点について相談する機会を作っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	4		第三者評価については実施できていないため、実施を検討していく。制度等に関する職員の知識を深めていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		月1回の研修を実施している。疾患や障害特性、支援方法、発達について、などのテーマで実施している。また外部研修への参加についても、費用補助や勤務調整などを実施している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		ホームページに公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		ご家族とご本人のニーズをお聞きし、お子さんの姿、学校での様子等を検討した上で、支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		支援計画の原案をもとに、お子さんの状況やご家族のニーズを共有しながら支援計画の検討を実施している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		ICTを活用することで、支援計画を職員がいつでも確認できるようにしており、それに基づいて支援ができるような環境を整えている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		発達状況などのフォーマルな情報も確認しながら、日々の様子からもアセスメントを行っている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		計画の作成にあたっては、ガイドラインの項目を参照しながら、お子さんにとって必要な支援を検討し、具体的な支援内容の設定を行っています。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		作業療法の視点を主としながら、活動の目的を考え、プログラムを立案し、職員間で共有している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		同じ目的でも活動を変えたり、段階づけを行うことで、楽しんで取り組めるように工夫している。目標やお子さんの様子によっては、意図的に同じプログラムを続けることもあるが、その意味や目的について共有しながら取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	4	3	個別支援のため必要に応じて実施している。	お子さんご家族のニーズを満たしていけるように、当事業所の支援形態で取り組める具体的な方策を提案、実施していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6	1	個別支援のため必要に応じて実施している。その日のお子さんの状態や活動の狙いを共有するように努めている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	個別支援のため必要に応じて実施している。また、ICTを用いた情報共有ツールでの情報共有も行なっている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		日々の支援については、お子さんの姿や支援の評価等の記録を残し、次回の支援時に参考にできるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		定期的なモニタリングの実施及び支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7		ガイドラインを参照し、お子さんに必要な支援ができるように活動を検討しながら取り組んでいる。	地域交流の活動については、実践的な取り組みが少ないため、当事業所でのお子さんへの支援における必要性を考慮しつつ、あり方を検討していく。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		活動の選択や活動の中でどのように取り組むかを考えることなど、自己決定をする力を意識した関わりを実施している。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		お子さんの姿や支援の目標を把握している児童発達支援管理責任者や直接支援に携わる作業療法士が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		ご家族を通して情報収集が中心ですが、書面や電話で主治医の先生からご指示をいただきながら支援を実施しています。また、必要に応じて学校等とも情報交換を行なっています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		送迎を実施していないため、細かな情報共有はできていないが、取り組みの内容等については共有するように努めている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		児童発達支援や保育所等訪問支援から移行された方については、担当者やご家族、保健師さん等と情報共有ができています。	児童発達支援や保育所等訪問支援から移行された方については、情報共有ができていますが、放課後等デイサービスから利用開始した方については保護者からの情報共有にとどまっているため、保健師さん等とも連携しながら情報共有に努めていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	3		学校卒業後の移行先との情報共有の形についてご家族とも相談しながら検討していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	4	連携をとるように努めているが、児童発達支援センターからスーパーバイズや助言を受ける機会はまだ持っていない。	研修への参加等を通して、児童発達支援センターからの助言等を受ける機会を検討していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5	お子さん同士の交流は実施できていない。	ご家族や本人のニーズも含めて、当事業所でのお子さんへの支援における必要性を考慮しつつ、あり方を検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7		自立支援協議会の中野こども部会の部会長を務めるなど、積極的に参加している。また、こども部会の広報紙を発行している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		毎回、支援終了後に支援の内容、お子さんの様子をお伝えし、現状の課題や支援方法について共有している。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	ペアレントトレーニングのような決められた形でのプログラムは実施していないが、生活の中で取り入れやすい関わり方などの対応方法については、ご家族へ伝えている。 また、児童発達支援センターで実施されているペアレントトレーニングについて紹介している。	
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		支援の内容については、見学に来ていただいた時、契約時にご説明している。利用者負担についても重要事項説明書を確認しながら説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		支援計画作成前には必ず面談を行い、お子さんやご家族の意向を確認するようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		支援計画を作成した際には、保護者の方に目標や支援内容説明を行い、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		個別支援実施時や保護者の方が気になることがあった時など、必要に応じてお話しする機会を作っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	3	4		学習会や座談会をに開催し、保護者交流の機会としたいと考えている。 また、保護者同士のつながりを作っていけるように各種団体とも連携していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		契約時に苦情に対する対応体制と方法をお伝えし、利用者様に配布している通信で「質問箱」についてお伝えしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		通信の配布やSNS等のツールの活用によって情報発信を行っている。	引き続き通信を発行していく。また、感染対策など早く情報を届ける必要がある場合は、LINEなどを使って発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報保護方針を定めて掲示し、必要事項については契約時に個人情報使用の同意書をいただいている。また、個人情報の含まれる書類については鍵付きの書棚に保管している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		お子さんとのコミュニケーションには、カード、タブレット、スイッチ等も使用している。 保護者の方とは毎回の支援終了後の情報共有や通信、LINE等のツールも活用しながら意思の疎通がしやすいように努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5	事業所の行事への招待等はできていないが、事業所で作成した自助具等を地域のイベントで販売するなど、地域との繋がりを作れるように努めている。	地域に開かれた事業所運営について、当事業所としてどのような取り組みができるかについて職員でも検討していく。
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		「安全管理マニュアル」として、対応マニュアルを作成している。保護者の方へは「安全のしおり」を配布し、災害等の対応について周知している。また、定期的な研修、訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		業務継続計画を作成し、それに基づいた研修と訓練を定期的実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		アセスメントシート（児童票）を活用し、利用前に医療的に必要な事項については保護者の方と情報を共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	5	食事やおやつを食べる機会がないため、対応していない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		マニュアルを作成し、職員への周知や定期的な研修、訓練を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安全計画に基づくものとしての紹介はできていないが、訓練などについては通信などで発信している。	

52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		ヒヤリハット事例があった場合には、あらかじめ定めた書式に記載し、スタッフ全員で閲覧し、それぞれが気づいたことを記入している。また、ICTを活用し、共有しやすい状況を作っている。	
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		虐待を防止するためのマニュアルを作成し、スタッフ全員に虐待防止研修を実施している。また、定期的にセルフチェックシートで自身の状況の振り返りを実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		やむをえず身体拘束を行う状況について個別支援計画書へ記載をしている。また、身体拘束を行う場合の決定については、身体拘束適正化委員会での協議の上決定し、マニュアルを作成している。	